

27年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 2月20日～ 27年3月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 45.8	△ 45.8	△ 37.5
	マツ	△ 54.5	△ 50.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 46.2	△ 46.2	△ 42.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 31.8	△ 13.6	△ 22.7
	マツ	△ 31.8	△ 31.8	△ 31.8
	広葉樹	△ 15.4	△ 26.9	△ 19.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 36.4	△ 54.5	△ 50.0
	マツ	△ 59.1	△ 59.1	△ 54.5
	広葉樹	△ 53.8	△ 53.8	△ 50.0

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
スギ・ヒノキ	20.8	20.8	16.7
マツ類	16.7	16.7	16.7
広葉樹	17.9	17.9	14.3

・チップ用国産原木の購入価格は、どの品目もやや強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・バイオ燃料の影響で入荷が鈍い（北海道）。
- ・仕入れは、広葉樹チップの伐採減少に伴い増量が見込めない。消費の減少変わらず。在庫減少、なかなか増えず（東北）。
- ・広葉樹は天候不順で入荷は減少、針葉樹はシステム販売等の終了で入荷減少。在庫も減少。（東北）
- ・間断的に山が雪になり、出材に苦労（中部）。
- ・FITに原木が流れ、チップ材としての入荷は激減。製紙用チップの需要は大きいが原木入荷がないため出荷量は減少（中部）。
- ・天候の心配も予測されず、入荷、消費、在庫は変動なし（中国）。
- ・発電事業体の本稼働で原木（FIT）の取り合いが起り、仕入れ減少になる、消費は原木不足で減少、在庫は仕入れ減で減少（四国）。
- ・2月はいつも並と予想したが、全樹種これまでの最高水準の入荷。国有林システム販売材は、製紙用途向けの入荷が計画通り。広葉樹は主に支障木を入荷。消費は、4月新年度製紙用チップ価格改訂（上昇）があり、システム販売材等の高値の丸太を加工できないため針葉樹は減産、広葉樹は低質、低価格の原木があるため減産だが稼働は維持。4月はフル稼働を予定。5月は年次点検で減産。製紙用針葉樹は減産で在庫増加、発電用も出荷開始は6月以降のため積み増し。今月は広葉樹の生産が主で在庫はやや減少（九州）。
- ・スギ仕入れは低調に推移、広葉樹は原木の動き順調で仕入れは調整した。スギ消費は減少傾向で推移、広葉樹は計画数量に伴った生産で推移、スギ出荷減で在庫横ばいで推移（九州）。

(原木価格)

- 少しずつ原木価格が値上がりしている（東北）。
- FIT用の価格が定着してきたため値上がっている（中部）。
- 変動なし（中国）。
- 変動なし（四国）。
- 針葉樹は2月に上がったため変わらないが、4月からは少々上がると予想。チップ価格は更なる上げが必要。広葉樹も少しずつ上げてきている。4月からのチップ改訂に向け対応（九州）。
- スギ原木高騰で推移、広葉樹は現状維持（九州）。

27年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 36.4	△ 45.5
	マツ類	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 30.8	△ 46.2	△ 38.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 25.0	△ 31.8
	マツ類	△ 36.4	△ 40.9	△ 40.9
	広葉樹	△ 26.9	△ 42.3	△ 34.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 55.0	△ 55.0
	マツ類	△ 65.0	△ 65.0	△ 65.0
	広葉樹	△ 59.1	△ 59.1	△ 59.1

・木材チップの生産、消費及び在庫は、いずれの樹種も3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	27年3月	4月	5月
スギ・ヒノキ類	8.3	16.7	0.0
マツ類	0.0	9.1	0.0
広葉樹	0.0	12.5	0.0

・木材チップの出荷価格は、スギ・ヒノキ類は3月、4月のやや強保合が5月は横ばい、マツ類及び広葉樹は3月の横ばい、4月のやや強保合が5月は横ばいに。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・材料不足で生産が出来ず。出荷は生産不足で減少（北海道）。
- ・減産変わらず。出荷減少変わらず（東北）。
- ・チップ出荷は原木の入荷次第（中部）。
- ・針葉樹、広葉樹共生産は減少、需要増に対し材の確保が進まず、出荷減（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・生産は燃料用は安定、一般原木は不足で減少、出荷は燃料用安定、製紙・ボード用は減少（原木単価高値にて製紙・ボード用への処分が出来ない状態）、在庫は製紙・ボード用は生産分は早く出荷のためなし、燃料用使用会社の入荷があり、当月は横ばい、翌月、翌々月は原木入荷の減少にて在庫減が考えられる（四国）。
- ・針葉樹は4月度からの価格改訂（上昇）を待つため大きく減産。現在のチップ単価に見合う原木単価の分だけ生産。広葉樹は針葉樹分の生産枠を補うためやや増加しているが全体では減産（九州）。
- ・スギ粗資料及び敷両用生産はやや減少、出荷低調。広葉樹は数量割当生産で推移、出荷は横ばい（九州）。

(木材チップ価格)

- ・値上げあり、製紙会社によりバラつきあり（東北）。
- ・製紙会社全社でないが、若干値上げをしてきている（特に針葉樹チップ）。木質バイオマスの影響か？（関東）。
- ・変動なし（中国）。
- ・バイオマス燃料用は横ばい、製紙用はバイオマス燃料用対策にてやや上昇期待（四国）。
- ・スギ・ヒノキ、広葉樹とも価格改訂（上昇）の予定の打診がある。マツは数量が少なくわずかに上がる程度と思う（九州）。
- ・